

厨子

仏像や舎利容器、経典などを安置する厨子は、寺院の仏堂に安置されて等身大（あるいはそれ以上）の仏像を納めるようなものから、小さな舎利容器を納めるものまで大小さまざなものが作られました。

宮殿形と呼ばれる仏殿を模した形式がよく知られ、中世には起伏（てむく）のある屋根に観音開きの扉を付けた本体部分、格狭間と呼ばれる窓のような装飾を設けた積み上げ式の基壇を有する春日厨子と呼ばれる形式（No. 21）が多く作られました。奥壁や扉には浄土（仏・菩薩の住む清浄な国土）や護法神が表わされ、仏の住むとされる一つの世界を表現しています。



扉が閉じた状態

23 黒漆彩絵厨子

Miniature Shrine

扉に諸尊を表わす仏像用の厨子で、向かって左側面の扉に冥土で亡者を裁く役割の十王が描かれていることから、これと縁の深い地藏菩薩が安置されていた可能性があります。



向かって左側面



向かって右側面

展示作品リスト

●：国宝 ○：重要文化財

No.	指定	名称	作者・伝来・出土地	時代	所蔵／所蔵番号（寄贈）
1	●	金銅能作生塔		鎌倉時代・13世紀	奈良・長福寺
2	○	塔鏡	法隆寺献納宝物	奈良時代・8世紀	N-254
3		百万塔		奈良時代・宝亀元年（770）	H-1183（川住經三郎氏寄贈）
4		百万塔		奈良時代・宝亀元年（770）	H-1184
5		百万塔		奈良時代・宝亀元年（770）	H-1186
6		銭弘俣八万四千塔	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山出土	中国 五代時代・10世紀	E-14867（北又留四郎氏ほか2名寄贈）
7		八万四千塔	道八作	江戸時代・19世紀	G-5858
8		泥塔経	鳥取県東伯郡琴浦町 智積寺経塚出土	室町時代・15世紀	J-34479（道祖尾萬次氏寄贈）
9		穀塔		鎌倉時代・13～14世紀	H-1422（植原統郎氏寄贈）
10		金銅装水晶五輪塔形舎利容器		室町時代・15世紀	E-19838
11		水晶五輪塔	静岡県沼津市本出土	鎌倉時代・13世紀	E-15066
12		舎利塔		江戸時代・17世紀	E-14349
13		金銅塔鈴		鎌倉時代・嘉元4年（1306）	E-13071
14		金銅塔鈴		鎌倉時代・13世紀	E-19885
15		金銅塔鈴		室町時代・文明17年（1485）	E-15315
16		多宝塔	飾屋八五郎作	江戸時代・19世紀	E-13006
17		銀装水晶五輪塔形舎利容器		鎌倉時代・13世紀	山形・慈光明院
18		舎利塔	鹿児島県志布志市 大慈寺伝来	江戸時代・17世紀	E-14350（石澤武吉氏寄贈）
19		蓮池時給舎利厨子	厨子時絵：五十嵐作、厨子彫刻：道圓作、舎利塔：後藤程乗作、京都・蓮華寺旧蔵	江戸時代・寛文12年（1672）	H-4633
20		金銅舎利塔		江戸時代・17世紀	奈良・薬師寺
21		春日宮曼荼羅彩絵舎利厨子		室町時代・文明11年（1479）	H-1214
22		聖徳太子坐像	本体・台座：鎌倉時代・永仁3年（1295）、厨子：鎌倉時代・13世紀		C-574
23		黒漆彩絵厨子		鎌倉時代・13～14世紀	H-4666
24		黒漆密陀絵厨子		室町時代・15世紀	H-1215



特集 塔と厨子

令和6年（2024）1月16日発行

執筆：清水健 撮影：藤瀬雄輔ほか 翻訳：君波妙子（以上、東京国立博物館） デザイン・製作・印刷：精興社
編集・発行：東京国立博物館 © 2024 Tokyo National Museum

特集

塔と厨子

Thematic Exhibition

Miniature Buddhist Structures: Pagodas, Stupas, and Shrines

令和6年（2024）1月16日（火）～2月25日（日）

東京国立博物館 本館14室



20 金銅舎利塔

Jeweled Pagoda (Buddhist Reliquary)

宝塔形の舎利容器で、内部に火焰宝珠形の舎利容器などが納められます。扉に舎利を護持する四天王を表わした厨子に安置されています。

塔は仏教の開祖である釈迦が入滅して荼毘に付された後、古代インドにおいて遺骨（舎利）を祀った施設（ストゥーパ）を起源としています。その後、釈迦・舎利信仰の広がりとともに、中央アジア、中国、朝鮮半島を経て日本へも伝わり、形式もその土地に応じて変化を遂げ、各地で舎利を礼拝・供養するための塔や、これを模した小塔が多数作られました。また、『法華経』などに塔を造ることが功德となることが説かれたことから、多数の小塔を造立することも盛んに行なわれました。

もう一方の厨子は仏像や舎利などを安置し、礼拝・供養するためのいれもので、日本では一般に、台座と屋根、観音開きの扉を有しています。石窟寺院に営まれた仏龕などを源流とし、仏堂や仏・菩薩の住まう浄土を模して大小さまざまな形式のものが作られました。なかには舎利を納めた塔を厨子に安置する形式もあり、これらはそれぞれ建造物に起源する造形物として興味深い関係を有しています。

本特集では、ともに建造物を模して製作された塔と厨子を概観し、その多彩な形式と魅力を紹介します。

Pagodas and stupas were erected to enshrine the cremated remains of the founder of Buddhism, the Buddha Śākyamuni. Later, as the Buddha himself and his remains became more deeply revered, a number of miniature models of these structures were made as objects to worship or pray for the repose of the deceased. The practice of making miniature pagodas and stupas prevailed also because it was encouraged as a good deed according to teachings expounded in Buddhist scriptures such as the *Lotus Sutra*.

Miniature shrines are double-door cabinets made specifically for housing and worshipping Buddhist statues or relics. Their designs varied considerably; some were modeled on actual Buddhist halls, while others were based on people's images of the Pure Land, where Buddhist gods were believed to reside. Some miniature shrines were made to house pagoda- or stupa-shaped Buddhist reliquaries, making for a fascinating connection between these Buddhist objects.

This exhibition aims to give an overview of miniature pagodas, stupas, and shrines, all of which were created based on their full-sized equivalents, and presents a variety of their types and charms.

塔の本義

塔は卒塔婆（ストゥーパの語音をあてたもの）ともいい、釈迦が亡くなった後に荼毘に付され、その遺骨（舍利）を信者で分け合い、安置・供養した施設が元になっています。古代インドでは高名な仏教遺跡であるサーンチーのストゥーパのように、土饅頭のような半球状で、上に箱形の平頭を載せ、その上に柱を立てて傘蓋を飾る形式の塔が石や磚（煉瓦）で造られました（参考図版参照）。

これが中央アジア、中国、朝鮮半島を経て日本へも伝わり、日本では中国の樓閣建築（数階建ての建物）と融合した三重や五重の層塔が木材で建てられるようになりました。



2 ◎ 塔鉢 Covered Bowl with a Stupa-Shaped Knob

内部に香を入れたとみられる容器です。蓋はインドのストゥーパや舍利容器を思わせる形状を示しています。



参考 ストゥーパ型舍利容器
Stupa-Shaped Buddhist Reliquary
パキスタン、ガンダーラ クシャーン朝・3世紀 TC-703

舍利を 祀る塔

密教の能作生塔



日本ではミニチュア化した塔形の舍利容器が広く受容されました。これには塔の中に瓶や壺の形をした舍利容器を安置するもの（No. 20）と、塔の形をした舍利容器に直接舍利を納めるもの（No. 10）とがあります。

いずれにしろ、塔に舍利を安置して礼拝・供養するということが求められたのであり、インド以来の舍利本来の祀り方を踏まえたうえで、祈禱や追慕などの目的に合わせて儀礼が行なわれました。

能作生塔は、万物の根源であり、あらゆる願いを叶えるとされる宝珠（能作生珠）を納める塔のことです。この宝珠は中世日本の密教では、舍利（仏教の根本である釈迦の遺骨）と同一のものと認識されたため、インドの水瓶形の舍利容器の形状に倣って能作生塔が作られました。

1 ◎ 金銅能作生塔
Stupa-Shaped Buddhist Reliquary for
a Wish-Granting Jewel



10 金銅装水晶五輪塔形舍利容器
Buddhist Reliquary in the Shape of
a Five-Element Stupa

仏教で世界を構成する五大要素とされた地・水・火・風・空を造形化したものを下から積み上げた塔で、円い水輪に舍利が納められています。



14 金銅塔鈴
Bell with a Jeweled Pagoda

密教の祈禱に用いられる道具で、一端が塔形に作られています。この部分は蓋のようになっていて、内部に舍利を納めることができます。

多数造塔 の功德

日本で広く受容された『法華経』には「方便品」という章があり、塔を造ること（造塔）の功德が述べられています。たくさんの塔を造ることはたくさんの功德を積むことと理解され、一度に大量の塔を造ることも行なわれました。釈迦の説いた教え（仏法）を舍利に見立てた法舍利（ここでは印刷された陀羅尼）を納める百万塔（No. 3～5）、経文を刻んだ泥塔経（No. 8）、舍利に見立てた粃（脱穀する前の米）を納める粃塔や、古代インドのアショーク王の故事に因んだ八万四千塔（八万四千は仏教で多数を表わす語、No. 6）などが知られています。



3～5 百万塔
Three of the “One Million
Pagodas”
称徳天皇の発願により
百万基が作られ、奈良などの大寺院に納められたと伝わります。法隆寺に伝来しました。



8 泥塔経
Miniature Stupas with a
Character from a Sutra
『法華経』の経文の一字と地藏菩薩の種子「𑖀」(カ)を刻んだ土製の塔で、造塔の功德を期待し、大量に作られました。



6 銭弘俶八万四千塔
One of Qian Hongchu's 84,000 Pagodas

中国・呉越国の王であった銭弘俶は、古代インドのアショーク王の故事に倣い、八万四千基の塔を造立したと伝えられています。

舍利を祀る厨子

塔形あるいはそれ以外の形をした舍利容器が、祈禱や礼拝の本尊として、厨子に祀られることもありました。厨子は元は仏像を祀った石窟寺院の仏龕（仏像を安置するためのくぼみ）に端を発し、仏・菩薩が住むとされる宮殿などを模したもので、日本では観音開きの扉を伴い、基壇（台）と屋蓋（屋根）を備える宮殿形の形式が多く製作されました。

舍利厨子は舍利を釈迦と解釈し、これを丁重に祀ったもので、扉には四天王など、釈迦・舍利を護る役割の護法神などが表わされました。



19 蓮池蒔絵舍利厨子
Miniature Shrine with a Lotus Pond; Stupa-Shaped Buddhist Reliquary

舍利容器と、これを納める厨子と一緒に製作されて伝わったもので、天人や蓮池には浄土のイメージが投影されています。



広目天 増長天 持国天 多聞天
向かって左側面 向かって右側面

21 春日宮曼荼羅彩絵舍利厨子

Miniature Shrine with the Kasuga Mandala for Buddhist Relics

春日厨子と呼ばれる形式の舍利を納める厨子です。奥壁に奈良・春日大社の景観が描かれているのは、春日大社第一殿の祭神が釈迦と同一視されたためです。